

T-792 取扱説明書

T792-z-2405

お買い上げありがとうございます。

ご使用の前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い下さいますようお願い申し上げます。

本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

- 印刷による制限のため、本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
- 本製品によって生じた、いかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
- 本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。

製品仕様 (改良のため予告なく変更する場合があります。)

- 時 間 精 度: 平均月差 ±30 秒以内 (気温 25℃で使用した場合) (電波時計による時刻修正を行わない場合)
- 表 示 精 度: ±1 秒以内 (電波受信による時刻修正の直後)
- 使用温度範囲: 0℃～+40℃ ※結露なきこと (外観/機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
- 使用推奨電池: 単3形アルカリ乾電池 (LR6 1.5V) 2個
- 電池寿命: 約 12 ヶ月 (単3形アルカリ乾電池 2 個を使用し、1 日に電波受信を 1 回、チャイムを 2 回使用した場合)
- 電 波 受 信: 40kHz/60kHz のどちらか受信しやすい電波を受信し、現在時刻に合わせる
 - 自動受信 (最多 4 回 / 1 日)
 - 手動受信
- 時刻表示: 12 時間制表示、または 24 時間制表示
- カレンダー表示: 2020 年 1 月 1 日～2099 年 12 月 31 日 (フルオート)
- 温度計: 表示範囲 -9.9℃～+60.0℃ ※-9.9℃より低いと LL.L、+60℃より高いと HH.H を表示
- 湿度計: 表示範囲 0%～99%RH (%RH は相対湿度の単位です) ※99%RH より高いと HH を表示
- 精度: ±1℃
- 湿度計: 表示範囲 ±4%RH (温度 25℃で、20%～80%RH の間) ±7%RH (上記以外)
- ライト機能
- プログラムチャイム: 最大設定数 4 回 / 1 日 (ウエストミンスターチャイム)
- 音量切り替え機能: 大 / 中 / 小

リセット操作について

電池を電池ホルダから外した直後は、静電気や内部に残っている電流により、誤動作(誤表示)する場合があります。電池を入れる前に、必ず**リセットボタン**を押して下さい。

※**リセットボタン**は、先の細い尖っていない棒などで押して下さい。針などの先端の鋭利なものを使用すると、ボタンが破損しますのでご注意ください。

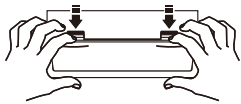
電池の交換について

- 電池容量が不足してくると、液晶表示が薄くなります。このような場合は、速やかに同じ種類の新しい電池に2個同時に交換して下さい。
- ※買い置きを電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管状態により電池寿命が短くなることがあります。

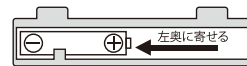
電池フタの開け方/電池の入れ方について

電池を入れる際は、下記の手順に沿って、電池フタを開け、単3形乾電池2個を電池ホルダの⊕⊖の表示に合わせて入れて下さい。

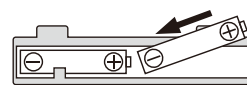
- ①電池フタを開けるときは、電池フタのパネ部分を、2か所同時に矢印↓の方向に押しながら、開けて下さい。



- ②1本目の電池を電池ホルダに⊖から入れ、左奥に寄せて下さい。



- ③2本目の電池も電池ホルダに⊖から入れて下さい。



- ④電池フタのツメ部分をツメ受け穴に差し込み電池フタを閉じます。パネ部分2か所をしっかりと押し込み、電池フタを開けて下さい。



電波時計について

電波時計とは
標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

標準電波とは
情報通信研究機構 (NICT) が運用している時刻情報をのせた電波です。標準電波送信所は、福島県の「福島局: おおたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県と福岡県の県境にある「九州局: はがね山標準電波送信所」の国内 2 か所にあります。
※標準電波の時刻情報は、およそ 10 万年に 1 秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波の送信停止について

標準電波は毎時 15 分と 45 分から各 1 分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波 (送信停止) することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

日本国外でのご使用について

本製品は、日本の標準電波以外は受信できません。海外で使用した場合、ご使用になる場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場合があります。あらかじめご了承ください。

電波の受信範囲について

送信所からおおむね半径 1000 km とされています。

※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。



電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
- ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
- 鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- 高圧送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
- 自動車、電車、飛行機などの中
- 家電製品やOA機器、蛍光灯などの照明器具の近く
- スチール机などの金属製家具の上や近く
- 朝・夕の時間帯や雨天のとき
- ※電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作を行い使用する場所を変更してご使用下さい。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準時グループ」を参照して下さい。

情報通信研究機構 ホームページアドレス <https://jy.nict.go.jp>

自動電波受信機能について

本製品は、日付と時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵クォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

受信の状態について (受信マークの表示例)



点滅中

■受信中 (電波を探している状態) です。



点灯

■受信に成功して時刻/日付修正を終了しています。
※次の受信開始まで点灯し続けます。



消灯

■受信に失敗して終了しています。
※次の受信開始 (点滅) まで、表示されません。

手動受信について

電波受信が終了 (受信マークが点灯、または消灯) しているときに受信ボタンを 2 秒以上押し続けると、電波受信を開始します。

※電波受信中に受信ボタンを 2 秒以上押し続けると電波受信を終了します。

温度湿度表示機能について

- 本製品は工業用 (業務用) 計測機器として使用する目的で製造されたものではありません。温度湿度表示機能は、センサーが本体内部に設置されているため、表示が安定するまでに時間がかかる場合があります。
- 他の製品、温度計・湿度計との誤差が発生する場合があります。
- 使用温度範囲を超えた場合、故障の原因となりますので、注意して下さい。

液晶表示について

- 液晶表示は角度により見えにくくなります。
- 温度が低くなると液晶表示の反応が遅くなることがあります。
- 0℃～+40℃の温度範囲を超えると、液晶表示が見えにくくなることがあります。
- 液晶表示は 5 年を過ぎるとコントラストが低下して、表示が見えにくくなることがあります。
- 液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。

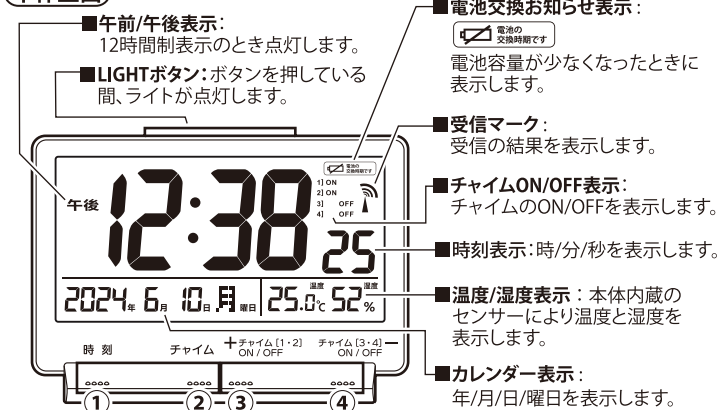


注意

種類の違う電池、古い電池と新しい電池などを混ぜて使用しないで下さい。電池の破裂や時計の故障の原因になります。

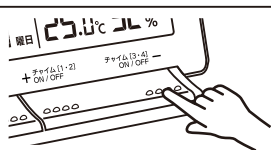
各部の名称

本体正面

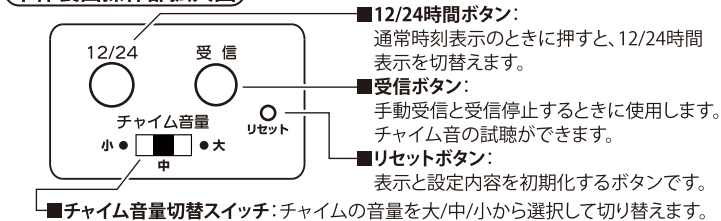


- ①時刻ボタン: 手動での時刻設定に使用します。
- ②チャイムボタン: チャイム時刻の設定に使用します。
- ③チャイム[1・2] /+ ボタン: チャイム[1・2]のON/OFFに使用します。設定操作中に1回押すごとに項目を加算します。
- ④チャイム[3・4] /- ボタン: チャイム[3・4]のON/OFFに使用します。設定操作中に1回押すごとに項目を減算します。

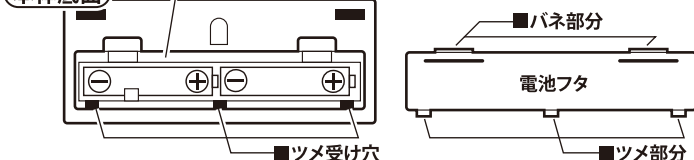
※①～④のボタンを操作する際は、突起部分を押して下さい。突起のない部分を押すと、ボタンの機能が混同する場合があります。



本体裏面操作部拡大図



本体底面



ご使用方法

- ①表示ラベルを剥がして下さい。
※ラベルを剥がす際に、液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。
- ②本書「電池フタの開け方/電池の入れ方について」を参照し、電池フタを開けて単3形乾電池2個を④の表示に合わせて入れ、ツメ部分をツメ受け穴に差し込み電池フタを閉じます。
→画面が表示され、「ピッ」と確認音が鳴った後、電波の受信を開始します。
※受信中は受信マークが点滅します。
※受信には最長12分かかります。
- ③受信の結果を確認する。本書「受信の状態について」を参照して下さい。
●受信に成功すると、受信マークが点灯して自動的に日付と時刻を修正します。
●受信に失敗すると、受信マークは消灯します。日付と時刻は修正されません。

電波受信ができなかった場合は…

①手動で時刻を設定し、朝までそのままにしておく

本書「手動で時刻を設定する」を参照して、現在時刻に合わせて時刻を設定し、一晩そのままにしておきます。
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくと、受信できる可能性が高くなります。

②設置場所を変える/受信をやり直す

本書「電波時計についての電波を受信しにくい環境」と「手動受信について」を参考に、設置場所を変えて、再度、受信をさせて下さい。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。



手動で時刻を設定する

T792-z-2405

注意

- ※電波受信中(受信マークの点滅中)に手動による時刻設定を行うと、電波の受信がキャンセルされます。
- ※設定中の点滅は約60秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。
- ※曜日は[年(西暦)・月・日]を設定すると自動で設定されます。

例)2024年6月10日(月)
午後12時38分を設定する場合

[年(西暦)] 2024年



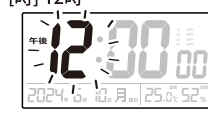
[月] 6月



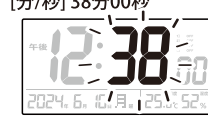
[日] 10日



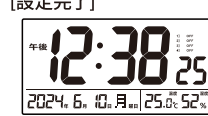
[時] 12時



[分/秒] 38分00秒



[設定完了]



日付曜日合わせ

時刻合わせ

1. 設定モードに入る
①通常時刻表示のときに時刻ボタンを3秒以上押すと[年]が点滅し、日付/時刻の設定モードに入ります。
2. [年(西暦)]を設定する
①[年]が点滅している間にチャイム[1・2] /+ ボタン、チャイム[3・4] /- ボタンで[年]を合わせて下さい。
②時刻ボタンを1回押して下さい。
3. [月]を設定する
①[月]が点滅している間にチャイム[1・2] /+ ボタン、チャイム[3・4] /- ボタンで[月]を合わせて下さい。
②時刻ボタンを1回押して下さい。
4. [日]を設定する
①[日]が点滅している間にチャイム[1・2] /+ ボタン、チャイム[3・4] /- ボタンで[日]を合わせて下さい。
※この時点で正しい曜日が表示されます。
②時刻ボタンを1回押して下さい。
5. [時]を設定する
①[時]が点滅している間にチャイム[1・2] /+ ボタン、チャイム[3・4] /- ボタンで[時]を合わせて下さい。
※[午前]と[午後]を間違えないように注意して下さい。
②時刻ボタンを1回押して下さい。
6. [分]と[秒]を設定する
①[分]が点滅している間にチャイム[1・2] /+ ボタン、チャイム[3・4] /- ボタンで[分]を合わせて下さい。
※チャイム[1・2] /+ ボタン、チャイム[3・4] /- ボタンを押すごとに[秒]が00に設定されます。
②時刻ボタンを1回押して下さい。
→[秒]部分は時刻ボタンを押した時点の秒が表示されます。
([分] 設定の際にチャイム[1・2] /+ ボタン、チャイム[3・4] /- ボタンを押した時点から経時した秒が表示されます。)

以上で設定が完了します。
※曜日が合っていない場合は[年(西暦)][月][日]の設定を見直して下さい。

①プログラムチャイム -時刻の設定方法-

プログラムチャイムを設定することで、任意の時間にチャイムを鳴らすことができます。(最大1日4回)

注意

- ※設定中の点滅は約60秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して、通常時刻表示に戻ります。
- ①通常時刻表示のときにチャイムボタンを押す。→チャイム[1]の設定時刻が表示します。※チャイムボタンを押すごとに、「チャイム[2]」→「チャイム[3]」→「チャイム[4]」の順に設定時刻を表示します。設定するチャイムを選んで下さい。
- ②チャイムボタンを3秒以上押し続ける。
→チャイムの設定モードに入り、[時]部分が点滅します。
- ③チャイム[1・2] /+ ボタン、チャイム[3・4] /- ボタンを押して[時]を設定する。
- ④[時]の設定が終了したら、チャイムボタンを押す。→[分]部分が点滅します。
- ⑤チャイム[1・2] /+ ボタン、チャイム[3・4] /- ボタンを押して[分]を設定する。
- ⑥[分]の設定が終了したら、チャイムボタンを押す。
- ⑦チャイムの設定時刻が表示されて設定が完了します。
- ⑧チャイムの設定完了後、チャイムボタンを押すと、通常時刻表示に戻ります。
※チャイムボタンを押すごとに、「チャイム[1]」→「チャイム[2]」→「チャイム[3]」→「チャイム[4]」→「通常時刻表示」の順に切り替わります。

②プログラムチャイム -使い方-

- チャイムを鳴らす: 通常時刻表示のときチャイム[1・2] /+ ボタンまたは、チャイム[3・4] /- ボタンを押す。チャイムON/OFF表示をONにする。
※チャイム[1・2] /+ ボタンまたはチャイム[3・4] /- ボタンは1回押す毎に対応する各チャイムのON/OFFが切り替わります。

例: チャイム[2]のみをONにする場合

- ①チャイム[1・2] /+ ボタンを押す→チャイムON/OFF表示 1) ON が点灯する
- ②再度チャイム[1・2] /+ ボタンを押す→チャイムON/OFF表示 2) ON が点灯する
- ③再度チャイム[1・2] /+ ボタンを押す→チャイムON/OFF表示 1) OFF が点灯する
- ④チャイム[2]のみが 2) ON となり、設定完了。

※初期状態(電池を入れた直後)は、チャイムはすべてOFFです。

- チャイムを途中で止める: LIGHTボタン以外のいずれかのボタンを押す。
→チャイムが鳴り止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。

※チャイムON/OFF表示はONのままです。

※チャイム音は約20秒で自動で鳴り止まります。

※チャイム音量切り替えスイッチでチャイムの音量を任意で[大/中/小]から設定することが出来ます。受信ボタンを押すと、設定した音量を確認することが出来ます。もう1回押すと、チャイム音が停止します。

ライト機能について

LIGHTボタンを押すと、ボタンを押している間ライトが点灯します。